

サーキット・ライダー 2007年12月号

清楚にクリスマスを祝う

天使は言った。「恐れるな。わたしは、民全体に与えられる大きな喜びを告げる。今日ダビデの町で、あなたがたのために救い主がお生まれになった。この方こそ主メシアである。あなたがたは、布にくるまって飼い葉桶の中に寝ている乳飲み子を見つけるであろう。これがあなたがたへのしるしである。」

ルカ 2：10－12.

クリスマスと直接関係ないのですが、最近“God Crew Tired of Us” (National Geographic, Sony Pictures, 2007)というドキュメンタリー映画をDVDで見ました。これはアフリカ・スーダンのロスト・ボーイズ(The Lost Boys)と呼ばれた少年達の記録映画です。スーダンをはじめ、コンゴ、ソマリア、アルジェリアなどアフリカ諸国は民族間で争い内戦が長いこと続いています。一つの民族が政権を握ると敵対する民族を虐殺し、中でもルワンダのツチ族とフツ族の争いと大虐殺は世界中を震撼させました。

90年ずっと内戦が続いたスーダンでは時の支配者は彼に逆らう民族、特に兵士となる可能性がある男の子たちを捕らえて次々と殺害しました。その結果、多くの人々が虐殺を逃れるため難民となり放浪しました。家族で逃げつづけることが困難になりゆく状況で、スーダンの村々の民はなんとか男の子だけでも逃がそうとし、結果として多くの少年難民を生み出しました。何百人という少年が歩いて隣国のウガンダやケニアに逃げ、水や食べるものが無く、何日も放浪し半数近くが尊い命を落としました。無事国連やユニセフ管轄下の避難所に辿り着いた少年達は、更にヨーロッパやアメリカの引き受け先に送られました。このドキュメントは数百名の少年達が難民としてアメリカやカナダに受け入れられた様子、その後が記録されています。

多くの少年達は戦火に遭い、生活の糧もない貧しい村で生まれ育ちました。彼らは水道も電気もガスも、水洗トイレも無い、勿論電話やコンピューターも無い生活をずっと送ってきました。その彼らが急にそれら全てが完備された先進国に来たのですから、その驚き、戸惑いは皆様も想像に難くないと思います。誤解しないで頂きたいのですが、アフリカ＝文明から閉ざされた国々とはくれぐれも思わないで下さい。アフリカ諸国の首都や都市部はアメリカや日本の都市部のようにインフラが完備され、文化的な生活を送っています。ただ農村や地方都市、取分け内戦の被害を受けた町や村はインフラを整備するような財力も資源も無く、取り残されてしまったのであって、アフリカの人々がみな未開のような生活をしているわけではありません。尤も、何を持って文明と呼び、何を持って未開と呼ぶのかは疑問ですが。

未開というよりも素朴或いは純粋と呼べるエピソードが彼らのアメリカ生活の中で描かれています。それは彼らのクリスマスに対する姿勢です。彼らがアメリカに来て最初に迎えたクリスマスは商業主義に踊らされたゴテゴテしたものでした。ショッピングセンターのサンタや派手に飾られたクリスマス・ツリーを見て彼らがこう問います。「サンタ・クロースって誰ですか?」「聖書のどこにサンタが出てきますか?」「クリスマス・ツリーも聖書のどこに書かれていますか?」その後、スーダンで彼らがクリスマスを祝う様が出てきます。そこにはツリーもサンタも無い。ご馳走もプレゼントも無い。彼らは日がな救い主イエス・キリストの誕生を祝って村中を歌って踊りまわります。その顔は喜びに満ちて光り輝いていました。再び誤解の無いように書きますが、私は欧米の習慣であるサンタ・クロースやクリスマス・ツリーを否定しませんし、子供たちと同じようにそれらを見ると浮き浮きします。ただあまりにも商業主義に踊らされている日本人、キリスト教から離れてパーティーだけするアメリカ人には悲哀を感じます。

ロスト・ボーイズの素朴な疑問、「聖書の中に書かれているか?」を熟慮し、もう一度聖書のクリスマス物語を読むと、そこには貧しい夫婦が旅の途中泊まる場所も無く、馬小屋に寝て出産したシーンが書かれています。馬小屋の飼い葉桶に寝かされた赤ちゃんが人類の救世主となる。天の使いにそれを知らされたのは知識人でもなくお金持ちでもない。ましてや世の為政者でもない。野宿していた貧しい羊飼いでした。キリストはこの世の権力、栄耀栄華とおよそかけ離れた所で静かに生まれました。それは世の中で誰もが力や富をひけらかしたり、奢ることがないためです。イエス・キリストはこの世の弱き者、貧しい者、虐げられている者と共に生きる為、私たち罪を赦す為この世に生を受けました。それがクリスマスです。皆様もクリスマス・イブの聖夜にはこの世のことを忘れ、喜びを持って救い主の誕生をお祝いしてください。メリー・クリスマス。

吉松 純

礼拝は日曜日午後4時です。Jr.教会(日曜学校)も4時からです。

- 12月 2日：礼拝(午後3時より)、聖餐式、Jr.教会、礼拝後、グリーンング=教会の飾りつけ
9日：礼拝、Jr.教会：アドベント・リース作り
16日：礼拝、Jr.教会：アドベント・リース続き、切手整理
23日：礼拝、Jr.教会：クリスマス物語朗読
30日：礼拝、Jr.教会：年越しうどん打ち、祝会。プレゼント交換
- 2008年
1月 6日：礼拝、聖餐式、Jr.教会：顕現節につきクリスマスの飾りの片付け

行事予定と報告

- * 洗礼準備聖書勉強会：毎週日曜日礼拝前の午後3時より。洗礼を受ける決心をしたかた、またまだ迷っている方、何も分からない方、皆歓迎します。
- * 毎週月曜日、午後7時：ハンドベル聖歌隊(英語)。
- * 毎週火曜日、午前10時：聖書研究会(英語)。パウロの書簡を学びます。
- * 毎週木曜日、午前10時：アメリカ人教会員指導によるクッキング・クラス(英語)。
- * 毎週木曜日、午後7時：聖歌隊(英語)。英語が苦手でも讃美できます。どなたも歓迎。
- * ユース(中高生会、英語)は第二、第四日曜日の午前9時。

お知らせ：

- * 12月2日(日)午後4時より、Greening=教会の飾りつけがあります。午後6時からスープとパンの夕食、交わりがあります。子供たちにはプレゼントもあります。どうぞご参加下さい。
- * 12月22日(土)午後3時よりクリスマス・キャロリング。Plaza 老人ホームから出発、アメリカ人の教会員のお宅を数件訪問しクリスマスの讃美歌を歌って回ります。キャロリング後 Will and Mae Smith さんのお宅で夕食を共に頂きます。どうぞこのアメリカ教会伝統の行事にご参加下さい。
- * 12月24日(月)午後7時より、クリスマス・イブ・キャンドルサービス。共に主の聖誕をお祝い下さい。
- * 12月30日(日)礼拝後、年越しのお祝い。子供たちと一緒に手打ちうどん、そば(市販の物)、おもちなどを頂きお祝いします。皆様一品お持ちより下さい。またクリスマスは礼拝のみで祝会をしませんので、この日にプレゼント交換もします。一人3ドル以内のプレゼントをご用意下さい。
- * お詫び：恒例の餅つき大会はありません。

感謝とお祈りのお願い：

- * 毎週木曜日のアメリカの伝統料理を習うクッキング教室は11月15日に無事終了。感謝いたします。春にはフラワー・アレンジメント、第二期クッキング教室を予定しています。

御協力お願い致します。献金のあて先は UMC-JA とし、寄付のあて先を Note に記してください。

- * ハーベスト・タイム放映の為、献金、お祈りのご協力をお願いいたします。
- * 消印のついた切手の周り1センチの余白を残して切り取って下さい。切手は日本キリスト教海外医療協力会(JOCS)に送ります。JOCS海外に医療関係者を送ると共に医療関係者の育成をしています。
- * ケニヤの恵まれない子供達やエイズ患者さん為に特別献金をしています。ご協力下さい。
- * パターソンの St. Philip 伝道と社会福祉団体 CUMAC/ECHO の為に。どちらもメソジスト教団に属し、貧しい人達の為の炊き出しと路傍伝道をしています。

連絡先：英語オフィス(201) 391-5499 日本語オフィス兼ファックス (201) 505-0347

吉松牧師 (201) 391-2208 pastor@umc-japan.org 代表役員：松尾孝恵姉 Takae17A@aol.com

教会学校担当：吉松 泉姉 izumi.yoshimatsu@gmail.com ホームページ：<http://umc-japan.org>